

令和6年1月29日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

石巻市議会
無会派 安倍 太郎

調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 安倍 太郎
- 2 調査期間 令和6年1月18日から
令和6年1月19日まで 1泊2日
- 3 調査地 (1) 茨城県守谷市
及び調査内容 ・住み良さランキング1位に向けたまちづくりについて

4 調査目的

(1) 茨城県守谷市

- ・住み良さランキング1位に向けたまちづくりについて

守谷市は、茨城県の南西端、東京都心から40キロメートル圏内に位置する。東は取手市、西は常総市、北はつくばみらい市に隣接し、南は利根川を挟んで千葉県野田市と柏市に相對した市である。高度成長期以降は都心から約40km圏内という立地条件を活かし、優良企業の誘致活動や大型宅地開発を推進するとともに都市基盤整備を進めてきた結果、町誕生当時1万2千人だった人口は平成21年には6万人を突破した。今後は、市民が真に住み良さを実感できるまちとするため、都市機能と自然との調和、市民との協働によるまちづくりへの取組み等を進めることとしている。

公的統計を基に、それぞれの市が持つ「都市力」を、安心度・利便度・快適度・富裕度の4つの観点に分類した「住み良さランキング1位に向けたまちづくりについて」を学び、今後の本市の施策の参考にすることが目的である。

5 調査概要・所感・調査による石巻市への政策提言等について

(1) 茨城県守谷市

- ・住み良さランキング 1 位に向けたまちづくりについて

◎視察概要

守谷市は、東洋経済新報社が全国の市を対象に毎年公表している「住みよさランキング」において、平成 17 年に 12、18 年には 11 位となり、19 年は 7 位、20 年には 1 位を取り、平成 30 年までの期間は 3 位から 11 位の評価を受ける自治体となった。

「住みよさランキング」とは、公的統計を基に、それぞれの市が持つ「都市力」を、安心度・利便度・快適度・富裕度の 4 つの観点に分類し、20 指標についてそれぞれ平均値を 50 とする偏差値を算出、その平均値を総合評価としてランキングしたものであり、守谷市は平成 17 年につくばエクスプレス開業に伴うランキング指標の伸びが大きく寄与している。

住み良さランキングの推移は注視しているが 1 位に向けた特別な取り組みは行っておらず、これまでのまちづくりの結果として出たものと守谷市は理解されている。

令和元年からは評価基準の見直しがあり、10 位以内に入る実績が残せず順位は降格したが、市長は数字統計ランキングでの 1 位ではなく、住んでいる方が「住みよいまち」であると実感していただくことを目指し、「住みよいまちもりや」の実現をマニフェストとして掲げている。

守谷市のシティプロモーション活動は将来的にまちを発展させていく「担い手」を作ることを見込みとし、長く住み続けてもらう定住人口を増やすためには市の魅力を理解し、まちに共感してもらえ人々を増やすことが重要と考え、市内外の人に魅力を発信している。

守谷市は守谷おせっかいプロジェクトのプロモーション活動の概要として

1. 守谷の地区でもっと交流しよう。
2. 守谷の魅力をもっと伝えよう。
3. 守谷のファンをふやそう。
4. 小中学生と一緒に守谷を盛り上げよう。
5. 芸術の守谷、スポーツの守谷を知ろう。

を掲げており、上記 5 点をコンセプトとしたプロモーションビデオを昨年制作している。

守谷市はプロ野球球団ヤクルトスワローズの二軍施設を誘致しており、昨年 11 月に協定を締結した。二軍施設に隣接して球団側は選手寮、クラブハウス用地の取得、市は（仮称）守谷市総合運動公園の整備を予定しており、交流人口の増加を期待している。

人口の推移に関しては、過去 20 年間の間に 1.3 倍の増加基調が続いている。これは都市計画に基づく基盤整備と高速道路やつくばエクスプレスの開通により、適度に自然がある場所として選ばれているのではないかとのこと。2050 年の国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計では守谷市は 11.4%増が見込まれているが、守谷市は人口が伸び続けるという予測はしていない。課題としては呼び込んだ人を守谷市民として留まるような仕掛けを行う必要性を感じているとのことである。

◎所感

守谷市は住み良さランキング1位に向けた特別な取り組みは行っておらず、住んでいる方が「住みよいまち」であると実感していただくことを目指している。

守谷市は平成17年につくばエクスプレス開業がランキング指標へ貢献しているとのことであるが、プロモーション映像では守谷市民が住んでよかった点や魅力をアピールしており、人とのつながりを大切にしていると感じさせられる内容に感銘を受けた。

◎政策提言

石巻市は旅行情報誌「じゃらん」の全国道の駅グランプリ2022で全国第2位の道の駅上品の郷やいしのみき元気いちば、黄金山神社、田代島、石ノ森萬画館といった観光資源や市内に8つの高校がある等、子育て環境も充実している。

しかし、令和5年12月定例会一般質問で桜坂高校の生徒が卒業後に石巻に残りたい人が0人であり、理由としては子育て環境が悪いからとの話があったように石巻の魅力が若い世代に十分に伝わっていないのが現状と思われる。実際に住んでいる市民が住み続けたいと思っていない市に外部から移住して住み続ける人を増やすことは難しい。

市長は令和6年1月21日に「子どもを生き育て、住み続けたくなるまち」の実現を目指す「こどもまんなか」宣言を行った。今後も情報発信に力を入れていただき、市民が市の魅力を理解し、まちに共感してもらえる人たちを増やすことで住み続けたくなるまちの実現していただきたい。



6 調査経費 30,476円

7 添付書類 別添資料のとおり